ご報告
新スタッフが入職しました

初期研修医

看護師

今年も４月１日に、平成30 年度採用の新スタッフ25 名が入職いたしました。看護師20 名、作業療法士1 名、初期研修医4 名が、すでにそれぞれの持ち場でフレッシュな力を発揮しはじめています。どうぞこれからの成長にご期待ください。

お知らせ

次の講演会、研修会を予定しております。ぜひご参加くださいませ。

第34回 あべの橋消化器病フォーラム

日　　時　平成30年７月７日(土)　16時～
場　　所　天王寺都ホテル　信貴の間
特別講演　大阪市立大学大学院医学研究科
消化器内科学　教授　藤原 靖弘 先生
「GERD診療の現状と課題」

第45回病診連携による生涯教育研修会

日　　時　平成30年９月８日(土)　14時～
場　　所　天王寺都ホテル　吉野東の間
シンポジウムテーマ「地域の救急医療」

※プログラムの完成次第あらためてご案内いたします。

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 1 丁目 2-22
TEL.06-6628-2221 FAX.06-6628-4707
ホームページ http://www.jrosakahosp.jp

受付時間／午前８時 30 分～午前 11 時 00 分
診療開始／午前９時 00 分～
休診日／土日祝・年末年始（12 月 30 日～１月３日）

201806

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

診療科 UPDATE
婦 人 科
ドクターインタビュー　部長　熊谷 広治
不妊治療チーム／
医長 坂井 昌弘／生殖補助医療胚培養士　内野 義彦・藤井和則

新任医師のご紹介
呼吸器内科／循環器内科／糖尿病・代謝内科／呼吸器外科
外科／放射線科・放射線治療科／眼科／整形外科

就任ご挨拶
看護部長　西谷内 由美

ぽっぽニュース

地域連携 ぽっぽ
よりよい医療の始発駅

Vol. 7
2018 June

当院婦人科では幅広い婦人科疾患の治療、ならびに不妊治療を手がけています。
まずは熊谷医師より、悪性腫瘍を主とした婦人科疾患への取り組みをご紹介します。

部長

熊谷広治

ドクターインタビュー

熊谷 広治（くまがい こうじ）

神戸市生まれ。1989年大阪医科大学卒後、同大学附属病院、高槻赤十字病院などを経て2012年から大阪鉄道病院へ。日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、母体保護法指定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医。

プロフィール＋α

中・高・大学の10年間は軟式テニスの真剣勝負に熱中し、アスリート体型を維持していました。

「誠実・正直・親切」をモットーに診療。緊急のご紹介にも迅速に対応します。

病院一丸で治療とQOL向上に尽くす

私は、恩師の専門が婦人科腫瘍だったことから、大学病院では悪性腫瘍の臨床経験を積み重ねました。当院に赴任して6年になりますが、主に子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、腹膜がんなどの婦人科悪性腫瘍の診療に取り組んでいます。

近年は、若年層を含み悪性腫瘍は増加の一途をたどっています。早期発見ができればよいのですが、婦人科の悪性腫瘍は自覚症状に乏しいものも少なくないので、残念ながら診療時にはかなり進行してしまっているケースも多々あります。たとえば卵巣がんの場合、卵巣・卵管にとどまる進行期Ⅰ期(図1)なら予後は良好ですが、周囲へ転移した進行期Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期になると予後は厳しくなります(図2)。

これら治療困難な進行がんの治療に際しては、関連診療科(外科、泌尿器科、放射線科、放射線治療科、病理診断科、緩和ケア内科、薬剤部)の協力を仰いで最良のチーム医療が提供できるように心がけています。さらに昨年11月には当院に緩和ケア病棟が誕生したことでQOLは大きく向上しました。日常的に緩和ケアのスタッフと相談しながら、よりよい人生を過ごしていただけるよう力を尽くしています。

しかしながら、がんは早期発見早期治療できることに越したことがありません。また、子宮頸がんに関しては予防のエビデンスも出ていますので、広くご情報公開いただきたいところです(右頁コラム参照)。

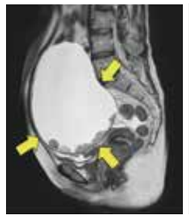

図1. 磁気共鳴装置(MRI)による卵巣がんⅠ期(40代)の画像

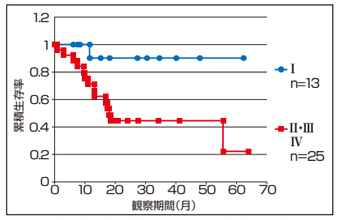

図2. 卵巣・卵管・腹膜がんの生存曲線（当院過去5年間）

患者さんを尊重しつつ専門知識で判断

日常診療では「誠実・正直・親切」な気持ちで患者さんに接することを大切にしています。たとえば悪性腫瘍の告知に関しても、基本的に病名告知をいたしますが、深刻な状況の場合は、その患者さんが受け入れられるかどうかを見極めるため、時には何日かかけて慎重にお伝えするようにしています。基本的にこちらから命の期限を告げることはいたしません。こればかりは、医者といえども予測を覆されることも少なくなく、単なる目安にすぎないからです。それよりも誠意を持って寄り添うことで、患者さんが限られた時間を充実して生きられることを大事にしたいと考えます。

治療方針の決定には、一般的に患者さん本人が必要な情報の説明を受け、理解した上で同意していただくことが不可欠とされています。しかし、ある講演会で「松竹梅、あなた決めなさい方式」は不親切で、「希望を勘案しておすすめを提案するワインのソムリエ方式」が望ましいとの話を聞き感銘を受けました。そこで患者さんの社会背景、人生観、価値観を勘案して、ソムリエのように専門的な立場から最良のおすすめを提案できるように気を配っています。

もちろん経過観察の患者さんのフォローにおいても手厚い態勢を整えています。検査に関しては近隣の病院との提携でPET/CTを活用し、再発を早期に発見し、治療に入れるようにしています。

地域のニーズに応じた幅広い医療を提供

ここでは悪性腫瘍への対応を中心に語ってきましたが、当院婦人科では、近隣住民のニーズに合わせて幅広い医療を提供しています。登録医の先生方からのご紹介にも、どんなに多忙であっても断ることなく対応します。特に腹水がたまるなど、患者さんの痛みや不安が大きい場合は、できる限りその日のうちに診療し治療方針を決めることをモットーとしています。どうぞ、お気軽にご相談、ご紹介ください。

子宮頸がん予防に「HPVワクチン」を

本邦では、毎年約3,000人の女性が子宮頸がんで亡くなりますが、最近20～30代の若年層でも子宮頸がんの罹患率が上昇しており、同年齢層でその死亡率も上昇しています(図3・4)。

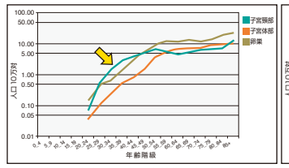

図3. 子宮頸・子宮体・卵巣がんの年齢階級別死亡率(2016年)

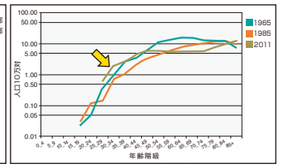

図4. 子宮頸がんの年齢階級別死亡率

すなわち子宮頸がんが妊娠・子育て世代を直撃しているので、若年層における子宮頸がんの早期発見と予防が重要な課題になっています。子宮がん検診（子宮頸部細胞診）で早期発見できれば(図5)、早期の根治手術が可能です。

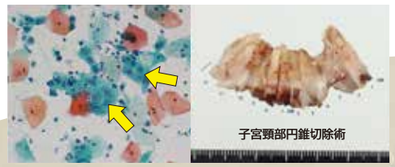

図5. 子宮がん検診（子宮頸部細胞診）で異常細胞を認めた（左図）

一方では、子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス（HPV）の感染から始まる病気ですので、子宮頸がん予防ワクチンの接種でHPV感染を予防することが可能です。2013年4月1日から同ワクチンは定期予防接種となり、小学6年生(12歳相当)から高校1年生(16歳相当)の女子は無料（公費）で接種することができます。しかし、疼痛などの副反応症状等について十分に情報提供できない状況にあることから、残念ながら積極的な接種勧奨が差し控えられ、世界標準から取り残されています。

この春には、70,000人以上の女子を対象にした大規模調査で「副反応症状とHPVワクチンの関連性は認められない」というエビデンスを証明する「名古屋スタディ」(2015年)もあらためて公開され話題になりました。子宮頸がんはワクチンで予防できる数少ないがんであるという認識がこれを機に再び広がればと思っています。

プロフィール＋α 特別編「ダイエット大作戦」

運動不足から昨年ついに体重計が8のゾロ目を示し（リセット表示かと思いました）、また職場検診でメタボ研修への参加を指示されショックを受けました。そこで食事を茶碗1杯で我慢し、デザートをプレーンヨーグルト（YM社の脂肪ゼロ）に限定すると6ヵ月で体重が15kg減り、駅の階段などを走るとさらに3ヵ月で5kg減り、ようやくメタボ基準を脱しました。ただし周囲からは痩せすぎと言われ評判は良くありません(笑)。

ダイエット前　ダイエット後

不妊治療チーム 不妊治療の「路地裏の名店」を目指したい。

左から、藤井 和則・坂井 昌弘・内野 義彦

医長 坂井 昌弘

坂井 昌弘(さかい まさひろ) 医長
大阪府東大阪市出身。1994年大阪医科大学卒業後、同附属病院産婦人科入局。大阪南医療センター、甲賀病院、大阪中央病院を経て2006年より大阪鉄道病院へ。2001年3月より大阪中央病院で体外受精を開始。日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、母体保護法指定医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医(子宮鏡下手術)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医。

2017年1月～12月不妊治療実績

採卵	胚移植	人工授精
115件	209件	267件

プロフィール+α

趣味は学生時代以来にやっていたスキー。最近、久しぶりに再開しました。とはいえあまり行く時間がとれないのですが。あとはもっぱら食べ歩きですね。よくうろうろするのは天満、福島、玉造など。料理のジャンルにはこだわらず、安くておいしいものを探すのが好きです。

主に不妊治療、内視鏡手術を担当しています。出身の大阪医科大学は、体外受精を大阪で最初に成功しており、教えてくださる先生が身近にいたのが不妊治療を手がけるきっかけとなりました。

当院は医師1名に、生殖補助医療胚培養士2名という規模で、体外受精も年間 100 例程度。大々的に宣伝を打ち、システマティックに治療を進める専門のプライベートクリニックとは異なります。そのぶん、顔の見える関係といいましょうか、胚培養士とともに一人ひとりの患者さんとしっかりと向き合い、心をこめて手厚く対応できるのが特徴です。また、入院設備もある総合病院のメリットを活かし、不妊の原因となる婦人科疾患が発見された場合にも院内でスムーズに治療ができます。加えて無精子症などの男性不妊についても、近隣の泌尿器科との連携で、的確に対処しています。

不妊治療といっても、我々は妊娠がかなうようにお手伝いをするだけです。できるだけ結果を出せるようにやれるべきことに全力で取り組んでいます。おかげさまで 2007 年の開始時から 2017 年 12 月 31 日までの胚移植あたりの妊娠率は全年齢で 35.2%、39 歳までなら 43%と、全国平均から見ても高いアベレージといえます。

ただ、医療が進歩しても、加齢の影響による卵子の老化、妊娠率の低下は防ぐことができません。40 歳を境に妊娠率は大きく落ちてしまいますし、欲を言うならお子さんを望まれるご夫婦には 35 歳前後までの検査をおすすめします。あまり重く考えずリラックスできる環境の中で、トライしていただくことが最良なのではないでしょうか。

費用的な負担も少なく当院にお気軽に通っていただけると思います。スマートさには欠けるかもしれませんが、ぬくもりのある「路地裏の名店」的スタンスで誠意ある診療を続けてまいります。

[生殖補助医療胚培養士インタビュー]

謙虚に技術を磨き続けたい。

生殖補助医療胚培養士 **内野 義彦**(うちの よしひこ)

以前在籍した病院で生殖医療部門を立ち上げるにあたり、検査技師から抜擢され生殖補助医療胚培養士の専門技術を身につけました。その病院から坂井先生が当院へ異動されたことに伴い、こちらでその経験とノウハウを活用することになりました。

初めの頃は「卵子や精子を助けてあげている」という気持ちを持っていましたが、長年続けているうちにそれは驕りではないかと思うようになってきました。本来は体内にある精子や卵子を取り出し、人の手で受精させるのは彼らの生きている環境からいうと引き算でしかないのではと。それを少しでも自然の状態に近づけて、引き算の部分を限りなく減らしてやるのが務めだと思っています。そのためにも細心の注意で環境を整え、手早く正確に扱うことを大切にしています。そうした思いがつながって、お子さんを授かる喜びを分かちあえた時の喜びは格別です。ちょうど生殖補助医療胚培養士を始めた頃、私自身、親となったので、その思いもひとしおです。

18 年間この仕事に携わり一定のレベルには達したと自負していますが、研修時代にまさに神技というすぐれたテクニックを目の当たりにしたことが未だ忘れられません。技を極めていくことが、患者さんの手助けになると思うので、これからも精進を続けていきたいです。

生命に関わる感動はいつも。

生殖補助医療胚培養士 **藤井 和則**(ふじい かずのり)

当院での不妊治療の開始とともに、内野の指導のもとで生殖補助医療胚培養士の技術を獲得して11年になります。それまで務めてきた検査技師とは異なり、自ら治療に踏み込む新しい世界に、当初は感激も戸惑いもありました。先生が患者さんから卵子と精子を採取したあとの処置は、精子の選別からマッチング、受精卵の育成や凍結に至るまで、私たちの手にかかっています。なにせ命の萌芽から365日、かかりっきりでお世話を続けなければいけない仕事です。気を抜けず大変でしたが、ようやくバランスをとることができるようになりました。そのまま人の幸せに直結する仕事なので、大きなやりがいと責任感を感じています。

当院は、不妊治療を大々的に打ち出すわけでもなく、一般の婦人科の治療のひとつとしてやっていて、胚培養士も2名と小さな規模です。それだけに、流れ作業ではなく新たな命の誕生まで、密接に関わることができます。これが分業化されていることの多い他施設との大きな違いであり、「顔の見える不妊治療」と標榜するゆえんでもあります。時には無事に生まれ育ったお子さんを連れて、先生だけでなく私たちにも名指しで会いにきてくださる方もいて、「あの時の赤ちゃんが」と思うと感慨無量になりますね。一人ひとりに心をこめ、緊張を切らないように手厚く…を心がけ、これからも誇りを持って取り組んでまいります。

新たなパワーで、さらに活気あふれる病院へ。

2018年4月より14名の医師が新たに加わりました。よろしくお見知りおきのほど、お願い申し上げます。

新任医師のご紹介

＜呼吸器内科＞

医師 東田 充功(とうだ みつのり)
専門分野　呼吸器全般
資格　日本内科学会認定内科医
現在は、呼吸器内科全般を担当させていただいております。患者さんの健康に寄与できるよう精一杯がんばっていく所存です。

医員 小林 正典(こばやし まさのり)
専門分野　呼吸器全般
まだまだ若輩者ですが、患者さんの立場に寄り添った診療を心がけたいと考えています。よろしくお願いいたします。

＜循環器内科＞

医長 藤村 有希(ふじむら ゆき)
専門分野　循環器全般
資格　日本内科学会認定内科医、難病指定医、日本医師会認定産業医
経食道心エコーによる心内血栓・形態の評価やCT・カテーテル等による冠動脈疾患の診断・治療にたずさわってまいります。地域の医療に貢献できるように取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

医員 奥野 隆祐(おくの たかひろ)
専門分野　循環器全般
患者さんのほとんどが人生の先輩なので、謙虚な姿勢で診療させていただいております。経験が浅い分、患者さんの話をできるだけよく聞いて、見逃しのないように努めてまいります。

＜糖尿病・代謝内科＞

医員 松井 崇晃(まつい たかあき)
専門分野　糖尿病・内分泌
糖尿病や生活改善について、患者さんやそのご家族がより取り組みやすい方法でお伝えしていければと考えております。まだまだ若輩者ですが、よろしくお願いいたします。

＜呼吸器外科＞

医長 鈴木 啓史(すずき ひろふみ)
専門分野　呼吸器外科
資格　日本外科学会専門医
気胸や肺がんを主とする呼吸器外科全般を担当しております。「この人に診てもらえて良かったな」と患者さんに思ってもらえるよう、心がけています。

＜ 外　科 ＞

副部長 玉井 秀政(たまい ひでまさ)
専門分野　一般消化器外科
資格　日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医
消化器外科を中心に外科全般を診療させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医長 小見山 聡介(こみやま そうすけ)
専門分野　一般消化器外科
資格　日本外科学会専門医
これまで、上・下部消化管をはじめ、肝胆膵においても積極的に取り組み、特に腹腔鏡手術に力を入れてまいりました。今後も患者さんを第一に、安全確実な最先端の医療を提供できるよう尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

＜放射線科・放射線治療科＞

医員 岡本 敏幸(おかもと としゆき)
専門分野　画像診断・IVR
画像診断、IVRを中心に先生方の治療に寄与できたらと思います。若輩ですが、精一杯がんばりますのでよろしくお願い申し上げます。

＜ 眼　科 ＞

医員 前野 紗代(まえの さよ)
専門分野　眼科一般
丁寧な診療を心がけております。患者さんのお力になれるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新看護部長よりご挨拶

このたび看護部長に西谷内 由美が就任いたしました。この場をお借りして、ご挨拶申し上げます。

看護師は、医師が良質の医療を実践するために重要な多くの役割を担っています。温かい心で信頼される看護を提供し、効果的なチーム医療が推進されるよう多職種連携のキーパーソンでありたいと考えています。

私自身は、看護師としてスタートして以来 30年、救急現場一筋に活動してまいりました。看護部長としては未熟な事ばかりで、副看護部長、師長をはじめ、多くのみなさまに助けられております。今後は現場で培った視点や経験、能力を最大限に活かし、大阪鉄道病院の成長・発展に貢献してまいる所存です。

当院としても、登録医の先生方とお互いの資源や能力を活かして連携しながら、地域住民のみなさまを支え地域包括ケアシステムの構築を目指してまいります。今後とも、どうかよろしくお願い申し上げます。

プロフィール

西谷内 由美（にしやち ゆみ）
1988年大阪警察病院附属看護専門学校卒業後、大阪警察病院救急外来入職。その後、救急病棟へ。2001年救急看護認定看護師資格取得。同年救急外来看護師長。2008年副看護部長、2010年よりER総合診療センター副センター長兼務。2016年認定看護管理者取得。2018年4月大阪鉄道病院看護部長。

＜整形外科＞

医長 上村 卓也(うえむら たくや)
専門分野　整形外科一般・手の外科
資格　日本整形外科学会専門医・日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本再生医学学会再生医療認定医
主に、上肢外科・手外科・末梢神経・マイクロサージャーを担当させていただきます。専門性の高い治療において患者さんにご満足いただけるよう、日々精進して診療に取り組む所存です。

医長 寺川 雅基(てらかわ まさき)
専門分野　整形外科一般・脊椎脊髄外科
資格　日本整形外科学会認定専門医
主に、脊椎脊髄疾患を専門としています。患者さんのニーズに合わせて、低侵襲を主軸にした手術方法にて健康寿命延伸に努めたいと考えています。

医員 山下 竜一
(やました りゅういち)
専門分野　整形外科一般
患者さんのため、精一杯がんばってまいりますので、よろしくお願いいたします。

医員 永田 浩之
(ながた ひろゆき)
専門分野　整形外科一般
骨折手術が中心でありますが、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。